

仏の十大弟子 多聞第一 阿難

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「非常事態宣言」が全都道府県に発出され、活動自粛をせよと多くの首長が声高らかに発言されます。小池東京都知事の言葉を借りれば「ホームステイ」ですね。

なかなか自粛しない人がいるため、公共の博物館や美術館、動物園、図書館などは軒並みお休みになりました。それに加えて、行楽地、公園なども立ち入らないでの表示がなされ、県知事のなかには「ゴールデンウィークはわが県に来ないで」とのたまわれる方もいます。

早くこの感染症の収束をと望むばかりです。

京都西本願寺前に龍谷大学龍谷ミュージアムという博物館があります。ここも例にもれず当分の間休館になりました。

四月十八日から六月十四日

まで春季特別展「ブツダのお弟子さん―教えをつなぐ物語」が開催される予定でした。

休館になったため、四月二十日発行の本願寺新報に一部の展示品が特別に紹介されていました。

その中にお釈迦さまの十大弟子の写真が掲載されていた。神奈川県・称名寺所蔵十四世紀木造の立像で画像は神奈川県立金沢文庫提供によるものです。

大学生の時に「仏の十大弟子」を知りました。お釈迦さま



まには多くのお弟子がおられました。たが、その中で特に優れたお弟子十人をそう呼びます。その十人のお弟子さんには全て「〇〇第一」という呼称がついています。

今月号でその中のお一人「アーナンダ」（写真）を紹介いたします。

アーナンダは「阿難」とか「阿難陀」と音写されたり、「慶喜」と意訳されたりします。私は「阿難尊者」とお呼びしています。阿難尊者はお釈迦さまの従兄弟にあたり、

お釈迦さま晩年の二十五年間お側に付き添った方でお釈迦さまの入滅を看取った唯一の方です。お釈迦さまの説法を最も多く聞いていたとされ、「多聞第一」と称賛されました。

お釈迦さまの晩年、阿難尊者は「お釈迦さま入滅後、私は誰によって悟りの道に入ることができようか」と嘆き悲しんで質問されました。それに対するお釈迦さまのお答えはまず諸行無常を説き、

続いて私亡き後は自らを灯明とし

法を灯明とし 自らを所依とし、

法を所依とせよという有名な「自灯明・法灯明」の教えを説かれたのです。法を灯明としてより所とし、その法に照らされて明らかになる、自分勝手に悪習に流された自己の姿をありのままに受けとめ、担い、生きることが大切であるとお示しと、私はこの「自灯明・法灯明」の教えをいただいています。（写真は本願寺新報から転載）

法語の世界

《原文》

人はそらごと申さじと嗜むを、随分とこそ思へ。心に偽りあらじと嗜む人は、さのみ多くはなきものなり。またよきことはならぬまでも、世間・仏法ともに心にかけて嗜みたきことなりと云々。

〔蓮如上人御一代記聞書〕二百四十八

《現代語訳》

「人は、嘘をつかないようにしようと努めることを大変よいことだと思っているが、心に嘘いつわりのないようしようと努める人はそれほど多くはない。また、よいことは、なかなかできるものではないとしても、世間でいう善、仏法で説く善、ともに心がけて行いたいものである」と仰せになりました。

《現代語訳》

随分……精一杯。全力を尽くしていること。

